

藤原光榮  
掃部助光俊  
左衛門尉晴長  
肥前守光種  
左衛門尉盛就  
散位貞廣  
前丹後守晴秀  
沙彌宗安  
前信濃守長俊

八月十九日。吉田兼右、大内義興に、畠山義續が河内畠山植長の遺跡を相續すべき風聞あるを報す。

【天文十四年日記】

一三三〇

河内邊事、家督之儀未定候。故尾州如遺言者、能州守護(畠山植長)息男候。依之當時其扱候。然處ニ不慮ニ能州匠作入道(畠山義興)死去候間、兎角打過候。多分可爲此人(吉田)之旨其沙汰候。佐々木霜臺之扱候。但於河州、尾州舍弟衆各其覺悟之由候。多分

可及鬪亂之旨、京中上下其沙汰候。恐々謹言。

八月十九日

兼右

大内殿

(能登守護畠山義總の卒去は本年七月十二日に在り) 九月朔日。幕府奉行人等、富樫晴泰と安威光脩との能美郡南白江莊領知に關する訴訟を勘進す。

【伺事記録】

一三三一

安威兵部少輔光脩與富樫小次郎晴泰相論加州南白江庄事。光脩備進往代古案并正文、雖有數通非公驗。此内貞治三年御判校物言□始、享祿年中以來度々申給御下知。而至晴泰就近年又被成御下知、光脩訴訟之半、晴泰捧應永廿六年并永享二年御判校正之處、既安威引取證文之條、任法被成奉書畢。仍可被成下御判之段望申之旨、御許容無豫儀者哉。

天文十四年九月一日

堯連

晴秀

長俊

(伺事記録に載せたる本文書の前に、今度富樫小次郎捧御判兩通。然此證文兄方在之。兄者國退去之人也。其證文預置者差日限借之間、校正之儀申之。子細者安威兵部少輔與富樫加州南白江相論之番三問三答者也。就其證文之儀如此也。云々。とあり。當時晴泰の兄泰俊が加賀を去りて越前に在りたるを見らるべし。)

九月十二日。後奈良天皇、河北郡傳燈寺二世綱存に禪師號を諡り給ふ。

【國泰寺文書】 越中

一三三二

口宣案

上卿 勸修寺大納言

天文十四年九月十二日 宣旨

綱存和尚

宜諡號圓通佛眼禪師

藏人右中辨藤原晴秀奉

九月二十日。結城宗俊、石川郡尾添村に、その

白山禪頂杣取の爭議に關係せざるべきことを誓ふ。

【白山比咩神社文書】 石川郡

一三三三

白山社頭杣取之事、牛頸・風嵐兩村者難去頼申ニ付而、宗俊上意へ申上候義、對尾添村失面目候。然者宗俊至子孫迄、此杣取之義於申妨者、日本國中大小神祇悉以可罷蒙御尉候。仍執達如件。

天文十四年九月廿日 地頭 結城七郎四郎 宗俊 在判

吉岡七郎左衛門尉殿

尾添村 中へ

十二月十三日。能登守護畠山義續、溫井總貞をして、山城東福寺栗棘庵にその代替の禮物を贈れるを謝せしむ。

【栗棘庵文書】 山城

一三三四

溫井備中守

屋形代替之爲祝儀、段子壹端・引合十帖、即令披露候處、